

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9 （共通）

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 6 年 6 月 1 2 日現在

機関番号：3 2 6 1 2

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：2 0 K 0 0 3 9 5

研究課題名（和文）ハーレム・ルネサンス前期におけるアフリカ系アメリカ文学 詩、小説、演劇

研究課題名（英文）African American Poetry, Fiction and Drama of the Pre-Harlem Renaissance Period

研究代表者

奥田 暁代（OKUDA, Akiyo）

慶應義塾大学・法学部（日吉）・教授

研究者番号：4 0 2 9 6 7 3 6

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究はハーレム・ルネサンス前期のアフリカ系アメリカ人作家をあらためてアメリカ文学史上に位置づけることによって、この時代の小説・詩・演劇の再考を促すことを目的とした。ハーレム・ルネサンスは、モダニズムを先導する、アフリカの彫刻・絵画あるいは黒人の音楽が基盤となる新しい芸術様式であったのに対し、ヴィクトリア朝芸術の影響が残る前期には、広範囲な文化的交差が見られたことを明らかにした。とくに女性による朗読や演説、演劇など世紀転換期の文化表象を具体的に見ていながら、アフリカ系アメリカ文学のアメリカ社会とのより深い関与を明示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間内には、海外の学術誌への論文掲載、共著の執筆、さらには国際学会での発表を行った。詩人のアリス・ダンバー＝ネルソンが活用した出版を手助けする白人エージェントの存在、劇作家でもあるポーリーン・E・ホプキンスが注目したネイティヴ・アメリカンの歴史、朗読家としても活躍したホリー・Q・ブラウンとシェークスピア劇を演じたヘンリエッタ・V・デイヴィスが関わった社会運動、というように、それぞれの研究において一貫して世紀転換期の作家とその文化活動を明らかにした。不毛であったとされてきたこの時代のアフリカ系アメリカ文化を、女性の広範囲な活動に注目して論考にまとめた。

研究成果の概要（英文）：The research focuses on pre-Harlem Renaissance African American writers like Hallie Q. Brown, Henrietta V. Davis, Pauline E. Hopkins, and Alice Dunbar-Nelson. While the Harlem Renaissance is defined as a blossoming of African American cultural production starting in the 1920s, more scholars now find the preceding period equally culturally significant. Building on such scholarship, this research revealed how at the turn of the century African American women, through scholarly lectures, dramatic elocutions, poetry readings, and musical performances, played an essential role in forming the foundation for the Harlem Renaissance as well as American literary and performative culture.

研究分野：アフリカ系アメリカ文学

キーワード：ハーレム・ルネサンス前期 世紀転換期アメリカ文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1．研究開始当初の背景

ハーレム・ルネサンスは、ニュー・ニグロ運動、ニグロ・ルネサンス、ジャズ・エイジなどと表現されることがあるように、オールド・ニグロとの訣別を告げるものだった。しかし、ブッカー・T・ワシントン編纂の *A New Negro for a New Century* (1900 年) が示すように、「ニュー・ニグロ」は世紀転換期から提唱されていた。ということは、ハーレム・ルネサンスの特徴とされる、歴史に依拠する「黒人のアイデンティティ」形成、音楽や演劇との密接な関係、（白人を含めた）出版ネットワークは、世紀転換期に始まったことだったと考えられないか。このハーレム・ルネサンスの基盤は 19 世紀ヴィクトリア朝芸術にあるのではという問いは、これまで個々の作家を調査・分析したことから、この時代の文化がハーレム・ルネサンスの特性を併せ持っていると考えたことに由来する。まず、世紀転換期には歴史に対する関心が顕著に見られ、例えば Pauline E. Hopkins による *Primer of Facts Pertaining to the Early Greatness of the African Race* (1905 年) など多数の歴史書が出版され、さらに John E. Bruce と Arthur A. Schomburg が 1911 年に設立した Negro Society for Historical Research のような歴史協会も各地でみられた。音楽や演劇という点では、ブルース、ホプキンズ、Henrietta V. Davis、James E. McGirt など、多くの作家が劇作を書き（演じることもあった）場面には歌や踊りが取り入れられた。出版ネットワークは 19 世紀半ばから次第に定着し、新聞の記事は互いに転載され、雑誌の流通は各地で販売人を募る形式を取り、刊行のために代理人も活用された。これまでは個々の作家についての活動として断片的に理解しているものを集約し、包括的な枠組を構築することで、この時代の文化がハーレム・ルネサンス結実に貢献したのではないかという問いに対して明確な答えを出そうとした。

### 2．研究の目的

これまでの研究では、注目されてこなかった作家たちの活動に着目し作品を分析することで、アフリカ系アメリカ文学史を読み直すことを目的としてきた。とくに意識していたのは、政治活動に傾倒していた／文芸活動に専念していた、あるいは、白人中心のアメリカ文壇に認められることを求めている／黒人コミュニティ内の文化創造を願っていた、などの二項対立で語られてきた従来の研究方法から離れ、白人読者を意識しながら定評のある文芸雑誌へ原稿を寄せ、さらに黒人読者を意識しながら黒人誌に執筆をするというように、この時代の作家・編集者・出版者が二方向へ、あるいは、さまざまに交差して創作活動を展開していたことを明らかにすることだった。本研究ではそれぞれの作家を分析するうえで明らかになったことを踏まえて、より広くこの時代のアフリカ系アメリカ文学の全体像を捉えることを目的とした。

具体的には、まず、南北戦争前 (ante-bellum) から戦争後 (postbellum) への継続性と、世紀転換期からハーレム・ルネサンス期への連続性の両方を明らかにすることを目指した。最近の研究では、19 世紀半ばにすでに各地で黒人紙が発行されていたことや、そういった刊行物の文学的要素にも目が向けられるようになり、例えば、アンテベラム期から続く（イギリス）文学の影響が明らかにされている。そのような研究を拠りどころに、19 世紀末の作品群にヴィクトリア朝文学の影響が色濃いことに着目し、その前の時代との関連性を明らかにする。また、朗読や演劇、音楽の要素を文学に持ち込んでいることに注目し、ハーレム・ルネサンス（モダニズム）への継続性を示す。さらに、広くアメリカ文化のなかにこれら作家を位置づけ、これまで語られることが少なかった、人種を越えた関りの実態を分析する。出版に関して人種の壁が低かったことを示すことで 白人代理人、編集者、出版社とのやり取りは頻繁に行われた これまでアフリカ系アメリカ文学のなかでのみ語られてきたことに、新しい視点をもたらすことを目指した。

### 3．研究の方法

前述の目的を達成するため、一次資料を存分に利用する文化史的アプローチを試みた。具体的には、当時の文芸雑誌、大衆誌、黒人誌などの資料を収集して精読することから始めた。黒人コミュニティ内に縛られずに、アメリカ文壇・出版界・読者との関わりを読み解く試みであるため、原稿や書簡、日記などの資料を、図書館の未発表コレクションを利用して調査することも必要であった。地域や人種、ジェンダーを跨いで研究は広範囲に及ぶため、編集者／出版社の分析をあくまでもアフリカ系アメリカ人作家との関係に絞って行った。アフリカ系アメリカ文学を、コミュニティ内の文化的ネットワークから探索する、あるいは、それぞれの作家とアメリカ文壇／読者とのつながりから探索するためには、出版や講演の記録、書簡の分析が有益だった。広く収集した資料の分析後は、テーマに沿って論考をまとめ（範囲が拡大し過ぎないように、それぞれの論考では対象とする作家を絞り込んだ）国内外の学会で口頭発表を行った。そのうえで、学会誌など学術誌への論文投稿につなげた。

#### 4. 研究成果

(1)「Managed Creativity: Alice Dunbar-Nelson's Navigation of the Publishing World's Racial and Gender Politics」(American Studies Association Annual Meeting、2021 年 10 月、於:ボルティモア)

アリス・ダンバー＝ネルソンの分析は、これまでの研究の延長線上にあり、多くの作家も関わったさまざまな文芸クラブの活動を出発点に、アフリカ系アメリカ人コミュニティ内での活躍と、同時に試みられていたアメリカ文壇への働きかけに着目した。本報告ではとくに、多くの著名なアメリカ作家のエージェント(著作権代理人)として知られたポール・レノルズと、アフリカ系アメリカ人女性詩人のダンバー＝ネルソンの関係を明らかにすることで、世紀転換期アメリカ文学の多様性の理解を深めることを試みた。

(2)「James E. McGirt's Periodical, Poetry and Performance: Bringing the Southern Landscape to Popular Audiences in the Pre-Harlem Renaissance Period」(*Mississippi Quarterly* 74 巻、363-392、2021 年)

ジェームズ・E・マッガートの作品や出版活動について文化史的な視点から読み解くことを試み、南部という「排他的」かつ「閉鎖的」と語られてきた地域に拠点を置くアフリカ系アメリカ人作家の可動性と多様性を明らかにする研究報告をもとに執筆した本論文は、二度目の投稿で海外の学術誌に採用された。作家としてはあまり知られていなかった雑誌編集者のさまざまな文化的活動(詩や演劇、音楽)を明らかにすることで、世紀転換期のアフリカ系アメリカ文学の多様な様相を示したばかりでなく、その研究にあらたな視点を提供できた。文芸誌や楽譜など一次資料を詳細に分析することによって大衆文化との繋がりを浮き彫りにし、アメリカ研究にも寄与することができた。

(3)「Turn-of-the century African American Magazines and Pauline E. Hopkins's Incorporation of Native American Representations in Her Serialized Novel *Winona*」(Organization of American Historians Annual Meeting、2022 年 4 月、於:ボストン)

ポーリーン・E・ホプキンズもまたマッガートと同じように、20 世紀初頭に文芸誌の編集長を務めていた。劇作の上演に関わるなど多彩な文化活動を展開していたが、本報告では雑誌に連載された小説に着目し、アフリカ系アメリカ人とネイティブ・アメリカンとの関係性、その文化的交錯を考察した。ホプキンズは今ではこの時代を代表する作家として体系的な研究が進められている。また、アフリカ系アメリカ人女性が果たした役割についても言及されるようになった。これらを踏まえた上で、推理小説というポピュラー・ジャンルを使用している点やネイティブ・アメリカン固有の文化を描写している点などから分析した。いずれも当時の大衆文化に位置づけられ、アフリカ系アメリカ文学の範疇の広さ、あるいは交差する芸術文化 人種を越えた読者や聴衆の重なりも含め について示唆することができた。

(4)「アフリカ系アメリカ人 autodidact の系譜 タナハシ・コーツの『美しき闘争』とポピュラー・カルチャー」(多民族研究学会、第 37 回全国大会、2022 年 7 月)

マッガートやホプキンズに限らず世紀転換期に活躍したアフリカ系アメリカ人知識人の多くが大衆文化と密接に関わっていたことは、ジョン・E・ブルースに関する論考でも明らかにしている。ブルースは人気の新聞コラムニストであり、探偵小説やメロドラマ劇を執筆するなどポピュラー・カルチャーとの繋がりが強い。奴隷として生まれたブルースは独学者でもあった。本報告では、このような独学の文化人の系譜に 21 世紀の人気作家 Ta-nehisi Coates を位置づけ、とくに、アフリカの歴史文化への憧憬と、流布する大衆文化 出版物や音楽、演劇 からの受容に注目した。二つの文化に親和性を見出しつつあらたな作品を創出したブルースなど独学者/作家の伝統に照らすことで、『美しき闘争』に見られるコーツのポピュラー・カルチャーとの関係について明示することができた。

(5)「アフリカ系アメリカ人オートダイダクトの系譜 19 世紀から 21 世紀にかけて タナハシ・コーツの『美しき闘争』とポピュラー・カルチャー」(『多民族研究』16 巻、49 - 72、2023 年)

多民族研究学会での口頭発表をもとに、ジョン・E・ブルースとともに歴史協会を設立したアーサー・A・ショーンバーグに関心を広げ論文とした。プエルトリコからの移民であったショーンバーグの受けた教育はブルースのそれと大差なく、文芸クラブや歴史協会などが学びの場となった。世紀転換期の多くのアフリカ系アメリカ人と同じように、ショーンバーグは幾つもの文化的組織に関与している。後にハーレム・ルネサンスの重鎮として知られるようになるショーンバーグは、アフリカ系アメリカ人に関連する資料の発掘、収集、出版によって多大な功績を残した。書物だけでなく芸術作品全般の「発掘と収集」というあらたな視座からアフリカ系アメリカ文学を考察できたことは、これまで続けてきた研究に視野の広がりをもたらした。また、19 世紀から続く多様なアフリカ系アメリカ文学の様相を明確にすることで、継続性に加えてジャンルの拡大を示唆することができた。

(6)『Henrietta Vinton Davis and Hallie Quinn Brown: Elocutionists/Dramatists Performing beyond Borders and Creating Spaces for African Americans』(Southeastern American Studies Association Meeting、2023年9月、於：アトランタ)

著名な朗読家として知られたヘンリエッタ・V・デイヴィスとハリー・Q・ブラウンの活動から、19世紀末から20世紀初頭にかけてアフリカ系アメリカ人女性が果たした役割について言及し、芸術を介したコミュニティ形成や、広くアメリカ文化との関連について全体像を描くことを試みた。研究全体を俯瞰しながら、詩や小説についての研究報告が続いていることから、本報告では朗読など舞台でのパフォーマンスに着目した。デイヴィスとブラウンをあわせて論じることで、朗読という芸術の意義、白人聴衆との関り、アフリカ系アメリカ人の文芸活動など幅広く分析することができた。

以上述べてきたように、本研究はアフリカ系アメリカ文学史の再考を試みるもので、とくにこれまで注目されずにきた19世紀末から20世紀初頭にかけての文化的活動を広く見ていくことによって、あらたな潮流を見いだそうとした。個々の作家を分析しながら全体像を示すことを目指してきたが、当初の目的以上の結果を得ることができた。実際に図書館に足を運び、いまだデジタル化されていない資料を利用することができたためと考える。その成果をそれぞれ学術誌に投稿する作業を進めている。アフリカ系アメリカ人の結びつきからは、ハーレム・ルネサンスを生む土壌となった世紀転換期の文化——出版文化に限らず、文芸クラブなどの集会、音楽・演劇などの公演、国内外に広がる出版ネットワーク——を確認することができ、アフリカ系アメリカ文学のより明確な流れが見えてきた。現在これらをまとめたハーレム・ルネサンス前期についての研究書の企画にも取り組んでいる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 奥田暁代	4. 巻 16
2. 論文標題 アフリカ系アメリカ人オートダイダクトの系譜19世紀から21世紀にかけて タナハシ・コーツの『美しき闘争』とポピュラー・カルチャー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 多民族研究	6. 最初と最後の頁 45～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyo Ito Okuda	4. 巻 74
2. 論文標題 James E. McGirt 's Periodical, Poetry and Performance: Bringing the Southern Landscape to Popular Audiences in the Pre-Harlem Renaissance Period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mississippi Quarterly	6. 最初と最後の頁 363～392
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Akiyo Ito Okuda
2. 発表標題 Henrietta Vinton Davis and Hallie Quinn Brown: Elocutionists/Dramatists Performing beyond Borders and Creating Spaces for African Americans
3. 学会等名 Southeastern American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奥田暁代
2. 発表標題 アフリカ系アメリカ人autodidactの系譜 タナハシ・コーツの『美しき闘争』とポピュラー・カルチャー
3. 学会等名 多民族学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiyo Ito Okuda
2. 発表標題 Turn-of-the century African American Magazines and Pauline E. Hopkins 's Incorporation of Native American Representations in Her Serialized Novel Winona
3. 学会等名 Organization of American Historians ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiyo Ito Okuda
2. 発表標題 Managed Creativity: Alice Dunbar-Nelson 's Navigation of the Publishing World 's Racial and Gender Politics
3. 学会等名 American Studies Association ( 国際学会 )
4. 発表年 2021年

〔 図書 〕 計0件

〔 産業財産権 〕

〔 その他 〕

-

#### 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔 国際研究集会 〕 計0件

#### 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------